

理想の星座をめざして（平成29年度 学校経営）

平成29年 4月 1日

校長 石田重久

学校は、子どもたちの知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長するために、子どもたちの生命を守り、安全な教育環境を整備し、安心して学校生活を送れるよう教育活動を行なっています。

そのために教職員は、

- ・生徒のチャレンジを応援し、生徒とともに活動する。
- ・絶えず研鑽し、一時間、一時間の授業を大切にする。
- ・生徒一人一人とのかかわりを大切に、愛情と情熱を注ぎ、生徒の変容に生きがいを感じる教師も生徒も「日々の学校生活を充実させ、あいさつを交わし合い、笑顔あふれる楽しい学校生活」を作っていきます。

教育課程外ですが、生徒の活動として部活動を大切な活動として、全教員でかかわって指導していきます。部活動・ボランティア活動は、本校の特色であり生徒の活動を支援しています。先生方も、地域の一員としての活動をしていきます。

目指す生徒像は、

- 学習に励む ー確かな学力の定着

主体的に学ぶために、基礎的な知識・技能をしっかりと身に付けさせる。論語にある「知好楽」で「知っているだけでの人は好んでやっている人にはかなわない。好んでやっている人も楽しんでやっている人にはかなわない。」です。学校生活の中心は、授業であり、授業を「楽しい」ものにするためには、その内容をしっかり「知る」（基礎・基本の定着）ための指導をしていきます。

- 自己をみつめる ー自分の課題に向き合う

自己実現のために、目標を立て計画的に生活するように指導します。

- 相互に高めあう ー世のため、人のために生きる

道徳だけではなく、教育活動全般で、互いに励ましあい、支えあい、感謝と思いやりの気持ちを持つ指導をします。

- 体力をつける ー心身の健やかな成長

そのために学校は、

生徒が学ぶ喜びと、学校に誇りを持てるようにし、保護者・地域から信頼されるように教育活動を推進します。

学校が、家庭・地域と「チーム」としての力を生かし、主体的に課題を解決していきます。

現在、学校には、学力向上、いじめ・不登校等の生活指導上の問題への対応、特別支援教育の充実をはじめ様々な課題がある。こうした諸課題に対応するため、協働体制を確立し、「チーム」としての対応力を高めることで、学校・家庭・地域との連携協力を一層強めていきます。

今年度の重点は、

- ・学力向上は、学力調査等結果を生かし授業規律の確立と主体的・対話的な深い学びの場としての授業改善と、指導の精度を高め、指導と評価の一体化する。生徒理解、指導方法を、通常学級と特別支援学級が併設されている特色を生かし深めていきます。
- ・健全育成は、生徒主体の活動を計画実施し、自己実現に努める生徒として育成していきます。生活指導は、全教員が共通して生活指導部・学年の方針を徹底していきます。教育相談や生活指導部会と連携し、いじめや不登校などの問題の防止、早期解決に努めていきます。
- ・地域・保護者とは、ボランティア活動や祭礼パトロール・地域行事に参加し「地域の一員」としての役割を果たすとともに連携を深めていきます。小中連携を計画的に実施し、小学生や保護者にとって進学したい学校を目指していきます。

指導の重点

各教科（基礎・基本の定着と学力向上）

- ・ 「学習ガイダンス」を行い、学習方法や評価について説明し、継続的に指導する。
- ・ 毎授業開始時にねらいを提示し、単元に言語活動・話し合い活動を取り入れる。
- ・ 主体的・対話的で深い学びを展開するための授業改善を行う。
- ・ 「全国学力・学習状況調査」「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」「中野区学力にかかわる調査」等の学力調査の結果から、科学的思考力の向上を目標とする。
- ・ 英語科・数学科において、習熟度別指導（東京方式）を取り入れる。
- ・ 学習コンテストを年2回行い、スモールステップでの達成感から学習意欲の向上を図る。
- ・ 英語検定・漢字検定等の受験を推奨し、資格取得に向けた意欲や主体的に学習に取り組む態度を育む。
- ・ 評価の精度を高め、指導と評価の一体化により学力向上を図る。
- ・ 特別な支援を要する生徒の指導では、巡回相談等関係諸機関と連携する。
- ・ 学校図書館指導員を活用し、学校図書館の充実と読書活動の推進を図る。

道徳

- ・ 自他の生命の尊厳と人権を尊重する精神を養うことを基調とし、生徒一人ひとりが豊かな心を育み、思いやりの心や規範意識を身に付けた生徒を育成する。
- ・ 道徳教育推進教師を中心に、3年間を見通した道徳教育の全体計画、年間指導計画の見直しを行い、教科化に向けて準備を進める。
- ・ 職場体験やボランティア活動、防災訓練等の豊かな体験活動を通して「地域の一員としての中学生」を育てる。
- ・ 道徳授業地区公開講座では保護司等地域の人材を活用する。
- ・ 特別支援学級との交流を推進し、障害のあるなしにかかわらず、共に生きる力と態度を育てる指導を意図的・計画的に取り入れる。
- ・ 道徳教育についての校内研修を行い、教科化に向けての理解を深め、全面実施に向けて試行的な取組を入れていく。

特別活動

- ・ 特別活動全体を通して、好ましい人間関係を醸成し、集団の一員としてのルールやマナーを身に付けながら規範意識や社会性を培い、互いに協力して豊かな学校生活を築こうとする態度を育てる。
- ・ 学校行事の工夫により生徒が活動する場の充実を図り、自己有用感や達成感を感じられる機会を設定する。
- ・ 特別支援学級との交流や協働的な学習、近隣幼稚園や保育園での幼児との触れ合い、地域活動での高齢者との関わりを通して、支え合いの精神を育み、好ましい人間関係を築く力を育成する。
- ・ 生徒会活動や学級活動を通して、自主自律の精神を培い、自ら進んで社会に参画する態度や自治的能力、自分に対する自信を身に付けさせる。
- ・ 地域社会での体験的な活動や交流活動への参加を推奨し、地域の人々との交流を通して社会の一員としての自覚を促し、責任を果たす態度を育てる。

総合的な学習の時間

- ・ 学校の統一テーマの中心に「人とかかわる」を設定し、体験的学習や探究的な学習活動の中に発達段階に即したコミュニケーション能力の育成を意図的・計画的に組み入れる。
- ・ 探究学習にあたっては、学校図書館を計画的に活用し、司書教諭や学校図書館指導員を活

用して資料の検索、収集を効果的に行う方法を身に付けさせる。また、中野の100冊を参考にして読書活動を推進する。

- ・ 防災・安全学習により、地域の防災や安全についての理解を深め、すすんで参画する知識・技能や態度を身に付けさせる。

生活指導

- ・ いじめ防止対策推進基本法に基づき、全教職員が全校体制でいじめの撲滅に向けて取組を続ける。
- ・ 学校生活に適応が難しい生徒や特別な支援を要する生徒の早期発見に努め、スクールカウンセラーや心の教室相談員との協力体制の下、教育相談委員会を中心とする全校体制により適切な支援活動を推進する。

進路指導

- ・ キャリア教育全体・年間指導計画に基づき、生徒が自らの生き方を考える機会を設定し、生涯にわたって健康、安全で幸福な生活を送ることができる能力や態度を育てる。

特色ある教育活動

- ・ 特別支援教育の視点を生かし、生徒の「個別のニーズ」に対応した教育活動を推進する。
- ・ 特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習を更に進めるとともに、副籍制度を推進する。
- ・ 「体力をつける」という学校の教育目標に即し、積極的に自身を鍛える生徒を育てる。
- ・ 地域との連携を更に進め、地域の教育力を生かした豊かな学習活動を展開する。
- ・ 防災教育の推進 第二中学校避難所運営会議、地域の防災活動団体及び中野消防署と連携し、総合的な学習の時間において防災訓練や普通救命講習等を行い、防災教育の充実を図る。また、避難所開設訓練や軽可搬ポンプ操法大会等地域の防災活動への参加を推奨し、将来においても地域に貢献できる人材を育成する。

小中連携教育の推進

小中連携教育担当者会を設置し、小学校との相互理解を深めながら、地域の実態や児童・生徒のニーズに応じたオープンキャンパスの実施及び小中連携教育の推進を図る。

オリンピック・パラリンピック教育の推進

- ・ 4つのテーマと4つのアクションをバランスよく取り入る。
- ・ 特別支援学級併設校としての特色を生かし、パラリンピックや障害者スポーツに対する理解を深める。

教職員の授業改善と学校運営

学力向上に向けて学習意欲を喚起し、生徒が考える授業を目指した授業改善・研究を推進する。

- ・ 国・東京都・中野区の学力定着度調査等の分析し検討結果を授業改善に生かす。
- ・ 全教員が指導計画に基づき単元のはじめに何を学ぶかを説明する。
- ・ 全教員が言語活動を取り入れた授業を計画的に実施し、確かな学力の向上を図る。

学校運営

- ・ 職責と役割を明確化し、組織的に学校運営を推進する。
- ・ 「報告・連絡・相談」と「記録」を常に念頭に置き、情報交換を密に行う。また、緊急時には「迅速・的確・誠実」を三原則として、各自の役割を明確にして組織的に取り組む。
- ・ OJTの推進人材育成の視点に立って、職場全体でお互いを高め合い、意欲的な教育活動を実践できるようにする。各教員は、資質の向上を目指し自己研鑽に励む。
- ・ 教育公務員としての服務意識を向上させ、服務事故防止の研修を計画的に実施する。
- ・ 創立70周年事業を引き続き計画的に準備し実施する。